

イワシ類シラスの漁場形成の研究

水産資源調査・評価推進委託事業

(予算区分 受託 研究期間 1995 年度～)

担当：水産・海洋技術研究所資源海洋科 鈴木聡志

【研究の背景とねらい】

- ・ 静岡県のカタクチイワシ類シラスの年間水揚金額は 30 億円を超える重要な魚種の一つです。
- ・ シラスの漁場形成要因を解明するために、水揚統計資料の収集や太平洋沿岸の卵稚仔の分布、海況変動等を把握することで、シラス漁況の変動特性を検討しました。

【これまでに得られた成果】

(2022 年度の状況)

- ・ 2022 年度漁期（2022 年 3 月～2023 年 1 月）の主要 6 港（静岡、吉田、御前崎、遠州、舞阪、新居）における総水揚量は 3,436 トンで、前年（5,510 トン）の 62.4%、過去 5 年平均（以下、平年）（5,101 トン）の 67.4%でした（図 1）。
- ・ 3、4 月の水揚量は前年、平年を大きく下回り、低調な水揚げが続きました。5 月は前年を大きく上回り、今季最大の水揚量でしたが、平年は下回りました。6 月には再び水揚量が減少し、以降は低調な水揚げが続きました。8 月は一時的に水揚量が増加し、前年、平年を上回りました。しかし、9 月には再び水揚量が減少しました。10 月以降も低調な水揚げが続きましたが、1 月には水揚量が増加し、前年、平年を大きく上回りました（図 2）。
- ・ 魚種別の漁況は、カタクチイワシのシラスが漁期を通じて漁獲され、5 月に最も水揚量が多くなりました。マイワシのシラスは 3～6 月に漁獲され、5 月に最も水揚量が多くなりました。ウルメイワシのシラスは 3～7 月、12～1 月に漁獲され、1 月に最も水揚量が多くなりました（図 3）。
- ・ シラス漁況の予測を行うとともに、調査船により漁場加入前の卵稚仔の分布状況を調査し、これらの結果を漁業者や加工業者に広報しました（計 8 回）。

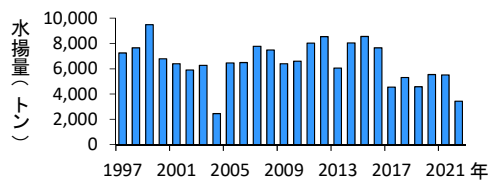


図 1 県内主要 6 港における漁期年別水揚量

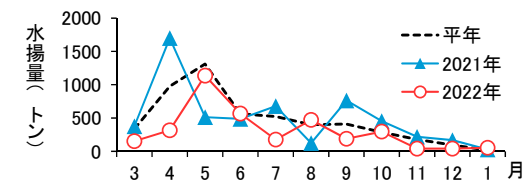


図 2 県内主要 6 港における月別水揚量の推移

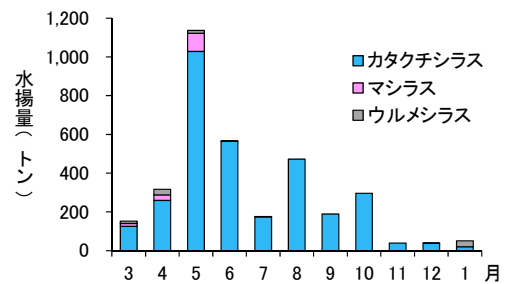


図 3 県内主要 6 港における月別魚種別水揚量の推移

【期待される成果】

- ・ シラス漁場形成の要因が解明され、高精度の漁況予測が可能になると、シラス漁業者は計画的な操業が、シラス加工業者は計画的な出荷が可能となります。

【今後の計画】

- ・ シラス漁況と卵稚仔の分布、海況変動等との関係を明らかにし、さらに漁場加入前のシラス分布調査を行うことで、シラス漁況の高精度の予測手法を確立します。

(作成 2023 年 4 月)